

# 鳥獣被害対策専門職員の設置による被害防止対策の取組事例 ー福島県猪苗代町ー

- 鳥獣被害対策専門職員を配置し、住民との信頼関係に基づく連携により、効率的な鳥獣被害対策を推進。
- 地域自らによる被害対策を後押し。

## きっかけ

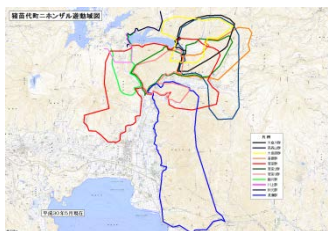
- 町では、ニホンザルやツキノワグマによる農作物等の被害が拡大
- 農家や役場職員からは半ばあきらめの声  
「サル対策は何をすればいいのかわからない・・・」  
「クマはいくら捕獲しても被害が減らない・・・」
- 出没状況や被害状況が十分に把握できず

鳥獣被害対策を進めるため、**集落ぐるみの対策を支援する専門職員を2名配置（H22～）**

## 専門職員の取組内容

### ○ 獣種に応じた被害対策の実施

- ・ ニホンザルの生息状況調査による群れ構成や遊動域の把握
- ・ ツキノワグマの移動ルートである河川敷の藪の刈り払い



《ニホンザルの群れの状況（H30.5）》

### ○ 集落ぐるみで取り組む対策への支援

- ・ 専門職員を中心に毎日の巡回と住民からの連絡に即座に対応（信頼関係を構築）
- ・ 集落が取り組む生息環境管理の整備、侵入防止柵の設置などの技術支援

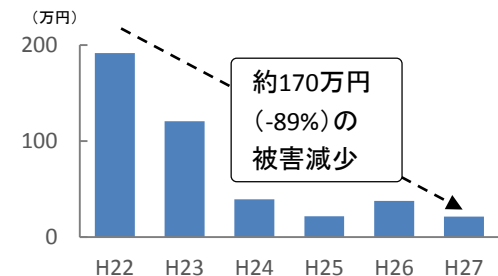
### ○ 広域的な対策への取り組み

- ・ 会津北部の5市町村で構成する「会津北部地域鳥獣害防止広域対策協議会」を設立し、核となる活動を展開

## 対策の効果

### ○ 農作物被害の減少

- ・ ニホンザル等の群れ管理が可能となり、また、住民が主体となった効果的な対策が確実に実施できるようになったため、**農作物被害は大きく減少**



《ニホンザルによる農作物被害金額の推移》

### ○ 集落ぐるみによる対策の定着

- ・ 白津集落では、専門職員の支援を受け、住民が主体となって立案した被害対策に基づき、集落ぐるみの対策が実施され、イノシシ、ツキノワグマ、ニホンザルによる人身被害及び農作物被害はほとんど見られなくなった
- ・ 周辺集落へ集落ぐるみで取り組む対策が波及



《住民が主体となって被害対策を立案》



《生息状況調査を行う専門職員》

### ○ 広域対策協議会による効果的な展開

- ・ 効果的な被害対策研修会の開催
- ・ ニホンザル行動調査情報を市町村間で共有
- ・ 各種補助事業を効果的に活用